ラフティング

安全管理マニュアル

※あくまでもサンプル（参考）となっております。↵

各コースや条件をご確認いただき、↵
それに沿った内容で作成いただきますよう、↵
お願いいたします。↵

2026年3月

ラフティングツアー安全管理マニュアル

シーン	大項目	小項目	内 容	資料No.
1．リスクの把握・評価	①プログラム実施の可否判断	各種許可申請、法令・条例に基づく資格取得の必要の有無確認	•法令 • 条例に基づく許可申請、資格取得は必要ない •漁業組合との協定の締結□	
		レース扱いの確認	•ガイド付きツアーのため、レース扱いにはならない	
		地権者の確認	•漁業組合との協定の締結□	
	②参加者レベル	参加者レベルの設定	•満4歳以上、もしくは身長80ｾﾝﾁ以上かつ体重10ｷﾛ以上でライフジャケットを装着できる者 **（中学生未満は保護者同伴。18歳未満は保護者の同意書が必要。）** •ガイドの指示を理解できる者	07
		外国人対応	•保険適用範囲の説明について翻訳した紙を提示し、自身の海外旅行保険での対応になることの了承を得る。	
	③装備	装備品の確認	•準備時にボードの空気圧（　　ﾟ程度）の確認、パドルの破損やﾘｰｼｭの損傷などがないかの確認を行う	04
		装備品の装着	•ライフジャケットの装着方法についてツアーの初めに参加者に説明する（安全に装着できているかゲスト同士での確認を必ず行い、ガイドも目視で確認する）	04
		参加者の私物使用の場合の基準	•ラフティングの装備（ライフジャケット、ヘルメッ ト、シューズ）で、ゲストの私物利用は上記の内容の確認事項に準ずる	
	④天候	中止、変更の判断基準	•雨天決行（季節や雨量による） •ツアー開始前の○○測水所の水位が、　　㎝以上放流量増加中の場合は中止。 •大雨 • 洪水 • 暴風警報が出た場合は中止。 •中止の場合、ツアー前日に参加者に連絡し、ツアー実施の可否を伝える •当日、ツアー開始後にダムからの放流量が急激に増え、規定水量を上回る可能性がある場合、ツアーを短縮することをお客様に告知し、状況に応じて速やかに切り上げる	
		天候悪化時の別ルート	•緊急時のアウトポイントをルートマップに記載	02
		地震発生時の対策	●地震発生時の避難場所への誘導や対応についてもマニュアルを作成	11
2.従前の予防対策・補償の検討	①申込書（同意書）及び	申込書（同意書）の作成	◆以下について明記した申込書（同意書）を作成 ●参加に関するルールと同意 ●事故が発生した際の補償内容についての同意 ●保証内容については案内時に紙面で提示する ※１８歳未満の方は必ず保護者に記入を頂く	07
	②体調管理	体調確認（参加者）	•参加確認書兼同意書にて参加者に確認の上参加してもらう	07
		体調確認（事業者）	•受付時やｾｰﾌﾃｨｰﾄｰｸ時、川に出てからは、ガイドとの応対で異常がないか目視で確認する	
	③安全説明	ﾁｪｯｸﾘｽﾄ作成	◆ｾｰﾌﾃｨﾄｰｸ（安全説明）で確認 ⇒ 説明するべき事項のリストを作成 ●当日の流れ・ルール　●天候などによる中止 • 変更の判断　●装備　●体調確認 ●補償内容の確認と説明●禁止事項　●リスク　●参加の可否の最終判断 ※説明時に体調不良等により参加を認められない参加者が出た際には、十分に理由を説明し、理解が得られない場合などは、毅然とした態度で対応する。	08

シーン	大項目	小項目	内 容	資料No.
2.従前の予防対策・補償の検討	④予見・回避	危険箇所の想定と対策	•ツアー中の危険箇所をルートマップに掲載 •緊急時の連絡先（病院、警察、消防）のリストを作成	02 03 11
		対策に必要なトレーニングや専門家アドバイス	•事前の現場の下見を行った上でルートを作成 •ガイド担当者の安全講習を実施（本マニュアルの社内講習） •事故等の緊急時の対応マニュアルを作成し、ガイド時に携帯	02 05
		救命講習の受講	•ガイドは消防署において受講できる「救命救急講習」を受講	
		緊急連絡体制の設定	•事故等の緊急時の対応マニュアルを作成し、ガイド時に携帯 ※基本的に携帯電話の電波は通じているが、キャリアによっては電波が弱い箇所があるので、その場合は移動をすること	05 11
		地域住民、警察、消防、病院、保健所との連携協議	•緊急時の連絡先（病院、警察、消防）のリストを作成	03
	⑤衛生管理	衛生管理の徹底	•袋菓子及びペットボトルの提供は行うが、全て未開封のものを渡す	
	⑥保険内容の確認	保険メニューの確認	•保険内容について保険会社と確認	01
		補償範囲の明確化	•参加申込書、安全説明で補償内容について説明を実施	07
		補償内容の説明	•参加申込書、安全説明で補償内容について説明を実施	07 08
		レンタル機材の補償	•レンタル機材の不備による事故の補償について保険加入済み （生産物賠償責任保険）	01
	⑦免責事項の留意点	免責事項の説明	•「危機管理は自己責任であることを十分認識し、同意する。ただし法的権利を何ら放棄するものではない」との記載を参加申込書に記載	07
		免責が無効となった場合の対処	•加入している保険で対応する	
3．体験プログラムの受付から当日の対応	①申し込みの受付	申込内容の確認	作成された、申込書の内容に不備がないかを確認し、同意がされているかを確認する。	
	②実施前	天候等条件の確認	天候やその他周辺環境がプログラム実行か確認を行う 前日大雨で水位が高い 道路などが通行止めなど 波浪警報が出ているなど 晴天でもプログラムが実行できない場合あり	中止、変更の判断基準の確認
		申込内容の再確認	申込内容に間違いがないか、再度確認を行う。 保険内容や条件に付いて再度説明を行う	
		携帯品や使用備品の確認	プログラムに必要な装備や備品等数量や安全性も含めて確認を行う。 緊急連絡や事故対応に関するマニュアルも携帯を行う。	
		体調管理（事業者）	ガイド自身が体験プログラムが実行可能であるか確認を行う。	
		体調管理（参加者）	体調チェックシートを作成するなどを行い、当日の体調について確認を行う。 体調不良等により参加を認められない参加者が出た際には、十分に理由を説明し、理解が得られない場合などは、毅然とした態度で対応する。	06
	③実施中	安全説明	作成したチェクリストに応じて、安全説明を行い、周知を行う。	
		プログラム実行	常に参加者に対して注意を配り、実行マニュアルに沿ったプログラムを実行する ・プログラムの内容 ・危険個所/参加者レベルに応じた休憩、給水	
		緊急時の対応	・急な天候の悪化や、地震等の自然災害、事故が発生した場合も冷静に、緊急時のマニュアルに沿った対応を行う。	

シーン	大項目	小項目	内 容	資料No.
事故対応	実施中	事故対応の実施	事故発生時の警察や消防、病院への報告や救命処置、応急手当等についてのマニュアルに沿って対応を行う。	
		事故処理後の記録作成	事故処理後に必要な記録項目（現場写真、スタッフ・参加者聞き取り等）を定めた、記録シートを作成する →ただし、被害者の対応を最優先すること	09
	実施後	被害者及び関係者の心情に配慮した対応	被害者の心情を優先した言葉使いや配慮を心掛ける。	
		保険会社や弁護士への確認・相談	加入している保険内容を確認のうえ、保険会社に今後の対応を相談する。	
	フォロー	謝罪、補償対応	場合によってはトラブルに発展することもあるため、自身の判断だけではなく、保険会社と相談しながら適正に対処する。	
	事故報告書	事故調査報告書の作成	予め調査項目を設定して事故調査報告書を定めておき、万一事故が発生した場合には、できるだけ迅速且つ正確に報告書を作成する。	09
		調査結果の共有・公開	調査結果については、被害者やその関係者の確認や同意を得たのち、適正に共有、公開することで再発防止につなげる。 今後の事故防止対策に生かせるよう、調査結果については、同業者間で共有することが望ましい。	10

事 業 概 要

事業名	ガイド付きSUPツアー
事業者名	
住所	
連絡先	
責任者	
事業内容	
契約保険会社	
ガイド氏名	

01 保険内容

作成日　令和G年4月1G日

【損害保険】

保険会社	保険種類	補償内容	保険期間	備考欄
○○株式会社	**賠償責任保険**	身体補償１名保険金額 □□万円 １事故免責金額 △△円 １事故保険金額 ○○万円 財物補償１事故保険金額 □□万円 １事故免責金額　●△万円	（一年更新） 令和 □年 ○月△日午後 4時から 令和 □年 ◆月 ▽日午後 4時まで	
○○損害保険会社	**国内旅行傷害保険**	死亡・後遺障害… ◇◇ 万円 入院… ○○ 円（○○ 日限度） 通院… ○○ 円（ □□日限度） 個人賠償責任… ▽△ 万円 救援者費用… ○○ 万円		

保険代理店　◇◆会社

担当　○○様

契約書コピー

02　危険箇所

SUPコース全体マップ

コースの図面

・スタート位置（水が多い場合とそうでない場合など）

・各ポイントを記載

　〇〇瀬など

　浅瀬の箇所など

◆注意箇所については、図面を切ってポイント別で記載をする。

注意地点に要点を記載。

【注意点の記載事例】

・右岸側→●m以上でフリップ可能なホールが発生
　　△m以下で岩が現れる

・橋脚→ラップ注意

・流れが激しく、瀬が長いため落とさないように注意

・左に膨らむとスタックする岩があり

・増水時ホール発生（●m～△m）

・コース右側に岩あり→次への岩に向けて体勢を崩す場合
・

【非常時連絡MAP】

・警察、消防など救助を要請する場合は、下記地点を「記載地名」で伝える
→対象者が動ける場合は、MAPの記載地点まで運び救助を待つ
→対象者が動かせない場合はMAP記載の地点番号と地点番号の間という風に伝える

地域や警察消防等から救助をしてもらう場合、救助可能な地点を把握しておき、警察・消防と情報共有をしておく。
その地点のMAP作成を行い、緊急時に対応できるようにMAPは常に携帯をしておく。

03　緊急連絡先

連絡先	電話番号	備　考
△△消防組合　□□消防署		最寄りの消防署
○○派出所		最寄りの警察署派出所または110番
代表　　電話番号		代表社
自社受付　電話番号		受付　陸サポート電話番号
△△診療所		最寄りの診療所不在時は１１９番
□□保険会社		担当：○○様

04　使用前点検チェックリスト

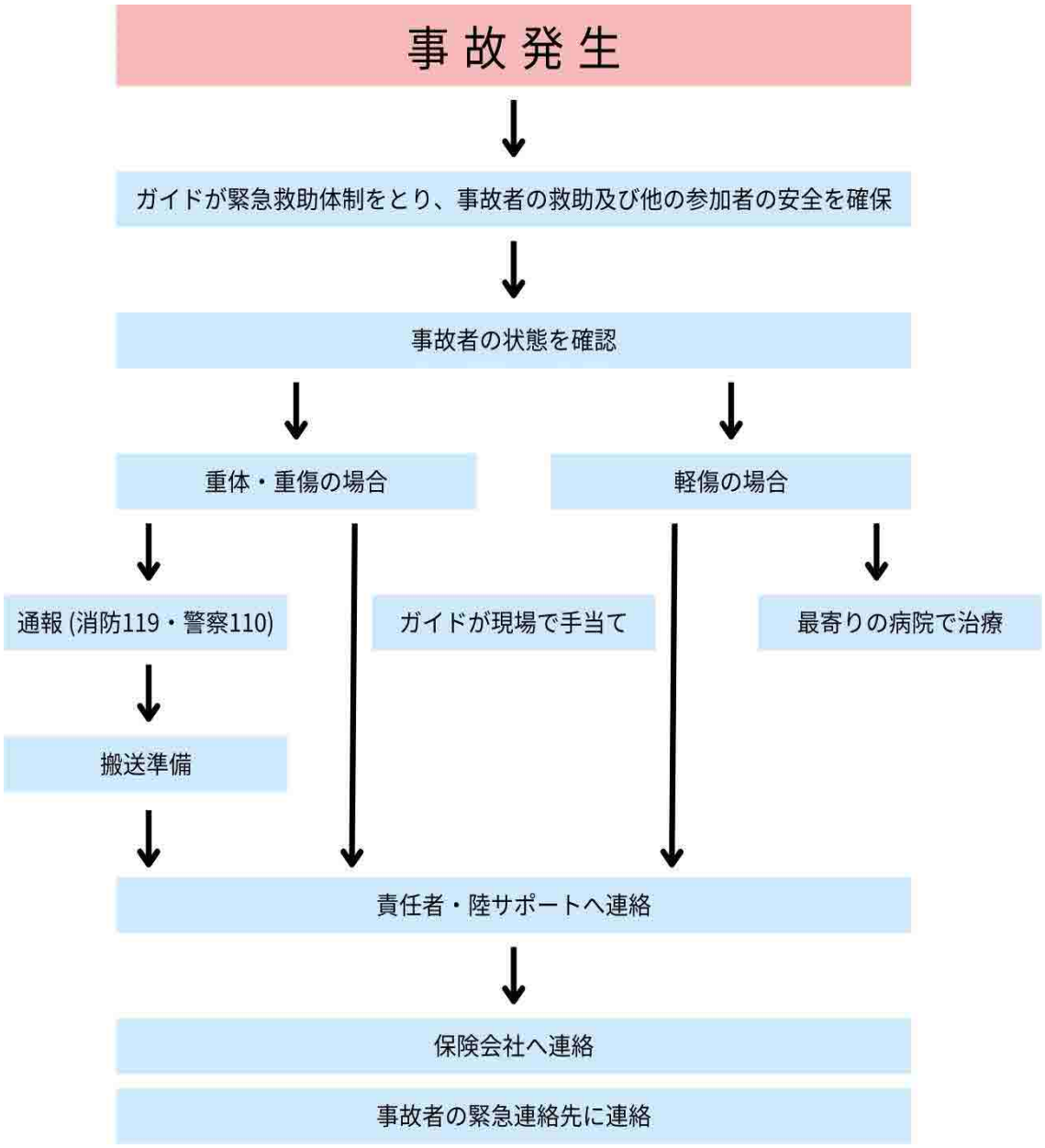
ラフトボートの乗艇前の確認事項

項目	点検方法	チェック
ラフトボートの点検	ボート全体に破損がないか確認する	
	アウターチューブ、スウォートチューブ、フロアーに破損が無いか確認する	
バルブ・空気圧の点検	バルブに破損がないか確認する	
	正しい空気圧になっているかの点検	
セーフティロープの点検	各種セーフティロープに破損がないか確認する	
パドル	シャフトが破損していないか確認する	
	ブレードに破損がないか確認する	
	ハンドルに破損がないかを確認する	
ライフジャケット	ライフジャケットのストラップ、バックル、ファスナーに破損がないか確認する	
ウェットスーツ	ゲストがウェットスーツ、ジャケットを正しく着用できているか確認する	
ヘルメット	ヘルメットに破損がないかを確認する。	
	ゲストがヘルメットを正しく装着できているかを確認する	
シューズ	シューズに破損がないかを確認する	
	ゲストのシューズが正しく機能するものかどうかを確認する (ゲスト持参のシューズの場合)	
	シューズが正しく着用されているかを確認する	
通信機器	通信手段を持っているかを確認する。防水ケースを含む。(携帯電話)	
補給水の準備	水分補給用のボトルに水分を入れて持っているかを確認する	
ファーストエイドキット	ファーストエイドキットがあるかどうかを確認	
	中身の補充ができているかどうかを確認する	
救助機材	スローバックを準備しているか確認する	
ポンプ	携帯用のポンプを準備しているか確認する	
フリップライン	フリップラインを準備しているか確認する	

05　緊急時対応マニュアル

△△消防組合　〇〇〇-〇〇〇〇

〇〇診療所　□□□-□□□□



06　救命講習受講者リスト

No.	受講年月日	受講場所	受講種別	講習者名
1			上級救命講習	
2			普通救命講習I	
3			普通救命講習I	
4			普通救命講習I	
5			普通救命講習I	
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				

07　同意書

アウトドアツアー参加確認書兼同意書

私は、令和　年　月　日（AM・PM・1DAY）に主催者（[redacted]）が開催するツアー

【ラフティング・サップ・その他（　　）】（○印をつけてください。）

に参加するにあたり、この確認書に記載されている条項を全て読み、理解し同意した上で以下に自筆の署名をいたします。

1. 私が参加するアウトドアスポーツは自然の中で行うスポーツという性質上、その他のスポーツ同様に参加中のケガや携行品の破損等が発生する危険性は排除できないことを十分認識しております。また、他からの強制ではなく、自分の意思でツアーの参加を決定しております。
2. 私は主催者が加入している保険の内容を理解しております。特に実際に支払った医療費や交通費等に対する補償、物損に対する補償がないことを理解しています。
3. 私は主催者が設けた規則やその帰属するスタッフの指示に従い、安全に心がけなければならないということを十分に理解しています。正当なる指示を無視して行った行動に対しては、応分の責任を負わなければならず、主催者側は指示に従わない参加者に対してツアーの参加を取り消す権利を有していることも理解しています。
4. 私は予期しえぬ自然現象など、不可避的な事象によって引き起こされた事故については、主催者とその帰属するガイドに対して無制限の責任は問いません。三者間（主催者・ガイド・私参加者）で責任配分の合意に至らぬ場合は法的な第三者の裁定に従うことを了承します。
5. 私は故意または指示に反した行動により主催者の管理する施設や備品などに損害を与えた場合、その修理費を負担することを了承します。
6. 私はツアー中にケガや病気になった場合、主催者側の判断により医療機関での治療を受け緊急の場合には医師および主催者が応急処置を施すことを承諾します。
7. 私は主催者が定めたツアーの参加条件に反しておりません。身体的に健康でありツアーの参加が悪影響を及ぼす可能性のあるケガや病気（例えば、骨折・心臓病・むちうちなど）はありません。また、飲酒（酒気帯び）、妊娠もしておりません。 隠蔽して参加した場合には応分の責任を負わねばならず、保険は適用されないことを理解しています。

	署名(フルネーム)	上記の条項に同意しますか	既往症記入欄（下記参照）	生年月日	緊急連絡先電話番号ご自分の携帯は不可
1		はい ／いいえ	無／有（　　）	西暦　年　月　日	
2		はい ／いいえ	無／有（　　）	西暦　年　月　日	
3		はい ／いいえ	無／有（　　）	西暦　年　月　日	
4		はい ／いいえ	無／有（　　）	西暦　年　月　日	
5		はい ／いいえ	無／有（　　）	西暦　年　月　日	
＊既往症例：ねんざ・脱臼癖・アレルギー(食物、日光など)・喘息・中外耳炎・腰痛・その他参加に不安な症状。 注：ツアー中のケガなどにつきましては、参加日の3日以降にお知らせいただいても保険の適用外となります。					

※ツアーで弊社が撮影した写真や動画などは、広告媒体,パンフレット,WEB サイト,SNS 等に使用させて頂く場合がありますが、宜しいでしょうか？　□はい　□いいえ

18歳未満の方は保護者の方が記入をお願いします。

08　安全説明(セーフティトーク)リスト

No.	項　目	説明内容
1	**体調確認**	• セーフティートーク内でも確認
2	**当日の流れ - ルール**	• 出発・終了予定時間、コースの説明
3	**川の注意点**	• 転倒のリスクと回避方法 • フットエントラップメントのリスク • ホワイトウォーターフローティングポジションの説明 • ディフェンシブスイミングとアグレッシブスイミングについての説明
4	**ライフジャケットの確認**	• ライフジャケットの着用方法と確認
5	**レスキュー方法**	• ロープの扱い方と注意点 • 落水時のリカバリー方法の説明(静水時/急流時)
G	**SUPについて**	• SUPの持ち方、使用時の注意点（フィン） • パドルの使い方、長さの調整方法 • 乗り方と漕ぎ方 • 立つ時の注意点 • 障害物との衝突時のリスクと対応方法 • クイックリリースリーシュの使い方(急流ツアー時)
	ラフティングについて	• ボートの乗り方と足のポジショニング • パドルの使い方・漕ぎ方と注意点、不使用時の置き方 • 急流箇所での事前告知と確認事項 • ボートでのガイドと漕ぎ手の各役割の説明 • ラフトボートの操船に関する指示についての説明
7	**その他**	• 熱中症や脱水症状の予防についてのアナウンス • 釣り人とのルールとマナー

09　事故処理後記録項目

記録事項	内　容	備　考
事故発生からの動き	時刻と内容	・ガイド、事故者、ほかの参加者の動きまでできるだけ細かく記録 ・当日だけではなく、後日の事故者への対応も記録
事故現場の写真	現場及び事故車輌の写真	・当日の撮影が困難な場合は、後日でも可
事故相手の連絡先	相手がいる場合は氏名、住所、連絡先を記録	・相手側の保険会社の連絡先も確認

10　事故調査報告書項目

章番号	大項目	小項目
1	事故調査委員会の構成	
2	事故概要	事故発生時の目撃情報
		事故発生後の主な時系
		事故発生までの当事者の様子
		現場検証結果
3	ルート上の危険箇所と事前対策	事前調査の内容
		救護体制
4	安全対策	問題点
		今後の事故発生防止策
5	第三者の所感	

11　地震発生時の対応

1. 揺れを感じた直後の初動

揺れを感じた場合及び、水上では小さな揺れに気づきにくいが、「山鳴り」「岩壁からの落石」「川面の異常な波立ち」を感じたら、即座に以下の行動を取る。

・全ボートの運行を中止

　ホイッスルなどで即座に中止を促す

・安全確保

　落石や倒木などの恐れがあるために、河川の中央付近に誘導する

　→姿勢はパドルをボート内に収めさせ、低重心でボートの真ん中に座る

※声掛け時には、安心して落ち着くように促す事

　急激な水位の変化や川の濁りがないかを確認する

〇二次災害の可能性があるため以下に注意

（揺れがある場合でも緊急時は安全を確保しつつ避難を行う）

警戒すべき兆候	推測されるリスク	取るべきアクション
川の水が急に濁る	上流で土砂崩れが発生	直ちに最寄りの安全な河原へ上陸→高い場所へ
水位が急激に下がる	上流で河道閉塞（天然ダム）が発生	最優先で上陸し高台へ避難（決壊の恐れ）
地鳴り・木の裂ける音	大規模な斜面崩壊の予兆	その場から即時離れる

2.揺れが収まったら

・ツアーの即時中止を行い、安全なルートで撤退

　→沈下橋付近は崩落の危険あり

　→できるだけ広い河原を選択

　→ヘルメットとライフジャケットは装着したまま

・道路が寸断されている可能性もあるため、まずは指定の避難所を目指す

　→土砂災害警戒区域などを避けて移動を行う

3.参加者への心理的ケアをこころがける

・パニックにならないように、自分がしっかり誘導する事を伝える

4.事前準備（携行しておくこと）

・「土砂災害警戒区域MAP」

・「緊急避難所MAP」

・「ラフティング非常時MAP」

５.訓練の実施

大規模地震（震度５以上）を想定した訓練を毎年5月に実施する